

ふみちゃん

ふみちゃん

ぼくは知ってるよ

ふみちゃんが肺病で死んだことを

誰もいない部屋で

一人で死んでいったことを

ふみちゃん

ぼくは聞いたよ

医者が来たとき ふみちゃんは

もう死にかけていたんだね

それなのに ふみちゃんは 毎日

熱さましの粉薬を飲まされていたんだね

ふみちゃんが死んだ あの部屋

ぼくは覚えているよ

だだっびろいー〇畳一間

それでも皆が寝ると狭かったそうだね

障子がなくて

寒いときは昼間でも雨戸をしめて

暗くていやだと言っていたね

ふみちゃん

どうして十三位で死んじゃったの

いつも太って

赤いホッペをしていた ふみちゃん

いつも元気で

子守をしながら母ちゃんを助けていたふみちゃん

いちどは 東京へ行ってみたい

いちどは 海をみてみたいと

いつも 言っていた ふみちゃん

ふみちゃん

まだ皆 ふみちゃんのこと覚えているよ

ふみちゃんのこと話すと

よっちゃんも とみちゃんも 泣くんだよ

母ちゃんは いまでも人にあうたんび

すまないことをしたって

あやまっているよ

でも

母ちゃんが悪いわけじゃないよ

母ちゃんは今も毎晩皿洗いに行ってるよ

父ちゃんはダムの現場だし

よっちゃんも とみちゃんも出稼ぎだから

今あの部屋で寝ているのは母ちゃんだけだよ

だから よけいにふみちゃんが

恋しいんだよ

ふみちゃん

いつもぼくに聞いていたね

おじさん 貧乏な家はどうしてみんな

ちりぢりになるのって

ぼくは いつも困って

いつか大人になったら分るよって答えたね

でも ふみちゃんは

大人にならないうちに 死んじゃったね

とうとう答えが分らないうちに

死んじゃったね

ふみちゃん

今夜は星もないよ

まるで ふみちゃんのことを思って

空まで かなしんでるみたいだよ

(一九五五・一一)